

相談室だより

No.5 令和4年12月7日(水)
石川県立金沢桜丘高等学校相談課



今回の相談室だよりは、11月に開催された、本校地歴・公民科の角谷正人先生によるご講演『1年人権教育講座』の感想文集です。12月4日～10日は「人権週間」です。聴講できなかった生徒の皆さんも、この機会に「身近な人権」について考えるヒントにしてください♪



今月は、本校の角谷正人先生による「1年人権教育講座

『神対応が放つ光の銀河の社会を目指して』の感想文特集です。

[101H]

- ・差別やいじめについて今まで深くは考えたことがなかったが、相手の立場に立たないことは相手の命さえ奪う「犯罪」と聞いて、よく考えて行動しようと思った。
- ・他の誰かを苦しめる「悪魔」になるのではなく、他の誰かを救えることができるようになりたい。自分がもし悪口を言われたときには「それがどうした」と言い返せるようにしたい。

[102H]

- ・最も印象に残り、今後意識したいと思ったことは「相手の立場に立たなければ命を奪う」という言葉だ。そんなことを考えず人に接してきたので、その言葉を見たときはグッと自分の中の何かをつかまれたようだった。「命」がコミュニケーションの中で侵されていくなら、自分の中にあるかもしれない意識の根源の差別感情をすぐに改め、発言一つ一つに責任を持ちたい。
- ・差別は「多数の人による少数の人に対する犯罪」であり、「する側に問題がある」という新しい考え方を学んだ。自分と異なる考え方を持つ人の意見には、耳を傾け、新たな意見として受け入れたい。思考に行動が伴ったときに、初めて人は変わる。とても濃い時間だった。
- ・現代の様々な問題を解決するためには多数派が変わるべきで、変わるためには、多様性を意識し、人と違うこと＝異質性を受け入れることが大切だと学んだ。

[103H]

- ・学校「いじめアンケート」でいつも「ない/知らない」と答えていたが、「いじめを見たことはないが、気が付いていないだけなのかも？」と考えさせられた。今まで「ある」と答えることに恐怖感があったが、それはいじめの存在を知っていて、何も行動を起こさないと同じだと気づかされた。もし、これからいじめや困っている人を見かけた時には「神対応」を心掛けたい。
- ・欧米では、いじめをした人がカウンセリングを受け、自宅待機になると聞いたことがある。同和差別が未だにあるという事実にとっても驚いたが、「差別する人が原因」という言葉に共感した。

[104H]

- ・角谷先生のお話を聞いて、歴史の授業で触れた同和問題や水平社の話や先生の体験談、そして一見関係なさそうな「神対応」という言葉から、過去と現在の人権問題を多角的に学ぶことができた。
- ・一番身近な差別は「いじめ」で「多数者による少数者に対する犯罪である」とわかった。
- ・石川県でも差別があったことに驚いた。特に「被差別部落家庭訪問でお茶を飲んだだけで相談されるようになった教員」の話で、今後はどんな差別もせず誰にでも優しく接していきたいと思った。

[105H]

- ・神対応は「紳士的で優しい」という意味ではなく、「困っている人を救おうとする捉え方」だとわかった。「多様性や異質性を大切にしたい、人と違うことは当たり前である」ということを教えてもらった。今後はそのことを理解して、周りの人と接していきたい。
- ・本日の人権教育講座の「他の人との違いを大切にすることが人権を守ることに繋がる」と聞いて、本当にその言葉通りだと思った。
- ・これから起こるかもしれないいじめなどの問題について、「自分は何も知らない」ではなく、「知ろうとする努力・変えようとする努力」を大切にしていきたい。哲学的な名言もあり興味もてた。

[106H]

- ・人権問題解決で大事なことは、差別する側に原因があるという考え方を学んだ。違いの理解を深め、色々な人と関わってきたい。
- ・「人間は行動次第で神にも悪魔にもなれる」という言葉が特に印象に残った。普段から偏見を持たず、差別的な考えをしないという心がけが「神対応」につながるのだとわかった。



[107H]

- ・難しくても、他者に影響を与える人になりたい。社会を変える人は、行動する人であり、行動を伴わないイメージに何の意味もない。難しくても、他者に影響を与える、自ら行動できる勇気ある人になりたい。
- ・相手の立場になって行動する大人になりたいが、やはり少数派のために行動することは勇気がいる。でも私たちに求められているのはその壁を破ることだ。これからは、多様性や異質性を尊重して個性を發揮できる社会のために「それがどうした」の精神を大切にしたい。

[108H]

- ・道徳や本日の講座の話を聞いて感動するだけでは何も変わらないので、今日の感動を受けて、多様性、異質性、違いをお互いに尊重することを忘れず、何かを変えるために行動することが必要だ。
- ・いじめや差別は、多数派が少数派を弾圧することで起こる。多数派の考えが正しいとは限らず、両方正しい場合もある。考えが違って押し付けず、よりよいものを作り出すことが大切だ。
- ・講座を通して、全ての話が関連付けられていたことが最後にわかり、大変驚いた。人は、神にも悪魔にも獣にもなれるので、人間の尊厳を大切に、いつでも「神対応」ができるように励みたい。

[109H]

- ・今回の人権教育講座で、相手の立場に立って考えることの大切さを再確認した。それは小さな頃から教育されて当然だと思っていたが、角谷先生のお話の中で「相手の立場に立たないことは、相手の命すら奪う犯罪だ」という言葉を聞いて、改めてその行為がどれだけ大切か考えさせられた。
- ・今回の講座で、差別はする人に原因があるとわかった。多様性、異質性、違いを大切にしようのが「人権」であることを忘れず、「神対応が放つ光の銀河」の社会になってほしい。
- ・一番驚いたことは、「差別やいじめはよくない」と教える立場の国や大人が差別を行ってきたことだ。16歳の少年が大勢の聴衆の前で差別反対の演説をしたことが本当にすごいことだと思う。また、差別をしなかった2人の校長先生もかっこよかった。この尊敬できる3人のように生きたい。



角谷先生、素晴らしいご講演をありがとうございました。

1年生の皆さん、素敵な感想をありがとうございました。